

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172700716		
法人名	狭山不動産株式会社		
事業所名	グループホーム見晴らしの家		
所在地	埼玉県狭山市入間川1730-1		
自己評価作成日	平成27年12月20日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度からドライバーが職員に加わり、大型車による外出支援が週3回実施できるようになりました。外出支援だけでなく、車椅子使用の方の受診の送り迎えなども盛んに支援できるようになりました。利用者は、天候に左右されずに外出することができ、日常的な外出により活動的に生活していただきます。掃除などの家事の際は、車椅子の方の居室を元気な方が担当して下さったり、食堂に集まる際には他の居室の方に声掛けして下さるなどして共同生活の良い場面が日常的に見られるようになりました。地域交流はまだ努力して行かなければならないことが多いですが、従来からの交流は絶やさぬよう継続しています。環境整備としては、ボランティアさんの協力をいただいてより趣味活動の充実を図りたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念をもとに、利用者やゆっくり関わることで、利用者の気持ちに添ったケアが行われている。ケアプラン作成において、利用者一人ひとりの支援項目に利用者にとって楽しいことを必ず盛り込むことに心がけられ、外出の機会を増やしたり、近所のお茶屋さんや馴染みのつきあいをするなどの支援に取り組みされている。
 ・ご家族のアンケートでも、「職員の方が家庭的できめ細かな対応で見守っていただき、安心して生活を送ることが出来ると感じました」、「調理室と食堂が直結しており、温かいうちに提供して下さるのが良い」などのコメントが寄せられ、事業所への安心感、信頼感に高い評価が得られている。
 ・目標達成計画については、家族や地域住民が参加した運営推進会議の開催をめざし、日時の調整や家族への呼びかけが継続されているほか、地域住民との合同での防災訓練やAED研修なども検討され、実施に向けた準備が進められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり のんびり 一緒に 楽しく」の理念のもとに地域に溶け込んだ生活が送れるように業務に就いている。	理念を基に、利用者一人ひとりに長くゆっくり接することで、家と同じ生活ができるよう支援に取り組まれている。新人職員へは理念の教育に加え、就業上の心得や個人情報の取り扱いなどオリエンテーションに時間をかけ、指導が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お茶お菓子近くのお茶店に利用者と共に行き、隣の畑の地主さんからは日常的に収穫物を頂いている。	近隣のお茶屋さんとは顔馴染みになり、利用者の名前呼び掛けて頂くなど、密接なつきあいがなされている。地域の農家さんから野菜を頂いたり、中学校の福祉体験学習を受け入れ、体育祭に出かけるなど様々な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習や福祉ボランティアの受け入れを積極的に行っている。昨年度に続き協議会の活動に協力して認知症の理解・支援にも積極的に活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催予定を家族に知らせるなどして、家族参加を盛り上げる取組を目指していたが、十分に実践できなかった。	運営推進会議では事業所からの状況報告や畑の活用など、市担当者からは「マイナンバー制度」の話など、それぞれの立場から意見や情報を伺い、幅広い内容での話し合いが行われ、有意義な会議運営が行われている。	家族が参加されている交流会やイベント開催の機会を利用し、運営推進会議を開催し、定期開催に繋がられ、家族に気軽な参加を呼びかける取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員が運営推進会議のメンバーになり、日常的に協力体制を持ってきている。	運営推進会議にも参加していただき、介護保険の改正などについても的確なアドバイスをいただいたり、市主催のサービス事業者協議会にも加わり、情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を活かして、身体拘束をしないケアについての理解は事業所全体で理解ができている。防犯状現在も玄関の施錠は行っている。利用者の出入りは職員が付き添いのうえで希望とおりにしている。	「一見意味のない利用者の行動を制止しない」など、具体的な事例をもとに職員への指導が行われている。外に出たいとの要望があれば、一緒に散歩に出かけるなど、利用者の意志や行動を尊重した対応がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修には毎年交代で参加の機会をつくり、園内に持ち帰り、他の職員にも情報を伝えている。利用者の体調変化と介護の連動にも注意をはらうよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して知識を得ている。職員全体も制度について身近に経験できる環境にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不安や疑問について繰り返し説明を行っている。説明は納得いくまで何回でも機会を設けて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交流会に、状況報告会を開催して、利用者家族が一同に意見や質問などが話合える機会を作っている。	面会時はもちろん、交流会で家族の意見や要望を伺うよう努められている。介護保険制度について市担当者に質問したり、外出や利用者が着ている洋服についてなど、細かな要望が出され、事業所も丁寧に対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回フロアミーティングを行って全体に意見をきいたり、情報の共有の機会にしている。その際は、職員に意見の発表を求めて、「聞く」姿勢にあることをアピールしている。	職員の考えや要望はいろいろな機会を通して出され、運営にも活かされている。特に職員同士が協力し合い、「心と力を合わせるケア」の工夫と実践が図られ、問題が発生したときも、スピード解決につながられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護保険に設けられた職員処遇改善の体制作りは積極的に推進して実践できている。母体が中心になって職員が資格取得に積極的に取り組むための支援体制をつくり、実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は積極的に行っている。代表者へは、本社総務課長が日常的に情報を伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の協議会に積極的に参加して役員になったり、イベント開催に深く協力的に参加している。事前打ち合わせなどにより同業者との交流も盛んになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が抱えている不安は、会話や言葉だけでなく行動に様々な形で表れているもと考えて、見守り、観察を大切にしている。説明や説得と取れるような言葉や会話は避けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時には、ホームの説明と共に、家族の話から疑問や要望を汲み取るよう、ゆっくり時間をかけてお話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後も継続する医療機関受診、理美容へのお出かけや定期的な外出などの支援についても家族と共に話合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り・掃除洗濯の家事全般には共に作業して、体調不良やADL低下によって作業困難な方には元気な方が助ける姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない支援を継続していただくようにご家族とは細かく連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問客が過ごしやすい雰囲気・環境であるように対応して、職員はそれぞれの関係性を理解した情報共有が出来ている。	近所の方が来られたり、出入りの職人さんと話をしたり、長いつきあいのお茶屋さんとは、馴染みの関係が出来上がり、日常的に交流が図られている。編み物や料理など昔からの習慣も大事にされ、継続への支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂に来る祭は他の方へ声掛けいて頂いたり、隣の居室の床掃除をお願いしたりして、利用者同士が支え合っている時間があるような機会を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の入院先に見舞いに行くなど、地元であることを活かした関係性はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発した言葉を大切にアセスメントしている。意思表示が難しい方については、表情や家族・職員からの情報を頼りに推測している。その際は其々職員の思い込みにも注意している。	「この人はこうだ」と思い込み、勝手に決めつけた対応をしないよう心がけられ、言葉にならない利用者の気持ちに添えるようケアに取り組まれている。夏祭りには浴衣を着て、化粧も楽しむなど、利用者の思いや意向に応えられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族のお話や利用サービス機関の情報から生活を把握している。家族もアセスメントシートの記入ができない事も多く、家族の面会時などに折を見てお話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	急激に変化する健康状態の情報共有は一番注意をしている。ひとりひとりの嬉しいことや心配ごとに関する情報も共有できるようにシフト間の申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問診療を利用されている方には、家族が直接に医師と話せるように調整して、利用者の身体状況を正しく理解できるような情報共有する機会を作るために職員間の連絡張を活用している。	介護計画のサービス内容には、医療や介護面だけでなく、利用者の「楽しみ」を必ず盛り込むよう努められている。現場でのケアプランの活用方法にも独自の工夫がなされ、職員は常に「今日、今何をするのか、何が必要か」を確認し、ケアに取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン第2表をいつも目にできるように個人記録張に掲示して、現実の介護と記録が介護計画からかけ離れたものにならないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関受診の際の付添や送迎など、家族との連携をもとに支援するように職員配置をしている。個人記録の他に、情報共有するために連絡張を使って様々に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお茶店への買物は散歩の目的地としての役割や、おやつ購入という共同生活内の役割を担う機会になっている。中学校の行事見学は、季節の節目を実感して、生活を活気づけてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療を受ける方や、入居前からの受診機関を継続して家族と受診される方など、ご本人・家族が選んだ医療機関を利用されている。	かかりつけ医への受診時には、医師に伝えたい内容を記載した報告書を持参させ、受診結果は家族から報告を受けたり、直接医師に伺うなどの対応がとられている。往診医が来所時には、家族が立会って相談される機会が設けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師の配置はなく訪問看護の利用もないが、受診時に医師に正しい状況が伝わるように、受診記録と健康記録表を活用している。必要時は受診に同行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は円滑に治療が受けられるように情報提供し、退院時には職員もカンファレンスに参加するなどして、退院後の生活支援のための指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時まで、重度化・終末期の事業所の介護の限界をお話している。地元の救急隊も緊急時の対応に関する情報提供書の様式を統一するなどして、地域も一緒に支援ができてきている。	緊急対応は救急隊との連携で、情報提供の書式を統一するなど、重度化に向けた対策が取られ、利用者、家族の安心感につながっている。常に話し合いが行われ、状態に応じて他の施設や病院の紹介、アドバイスが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急講習を受講し、応急処置や初期対応の実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもとに年2回の消防避難訓練を実施している。昼夜を通して避難活動が出来る様に、新入職の職員はまず訓練に参加出来る様にしている。運営推進会議の意見を中心に計画を検討している。	消防署のAED訓練に参加し、災害発生時の緊急対応などを学ばれている。夜間想定避難訓練を中心に「職員2人で、まず何をすればよいか」の優先順位を決めたり、火元による避難場所の確認などが行われている。	災害発生は予想がつきにくく、事業所だけでは対応できないと想定されることから、地域住民との協力体制作りの確立を図るため、まず訓練の見学からの誘いを行うなどの取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時の声掛けには特に気を付けている。一人一人に合った対応が出来る様に、一人ずつの対応が出来る様に心掛けている。	慣れによる対応を常に戒め、トイレの出入りの際、「どうでした？」などの声かけに注意するなど、利用者の快・不快を感じ取れるよう努められている。書類の保管など、個人情報の扱いも厳格に行われているが、破棄方法についての検討がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人に希望を伺う。意思の表出が難しい方には、二者択一で選ぶ機会を作り、ご本人が決定する過程を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側からの決まりや都合はない。たまに行事があつて時間制限がある時以外は、個人のペースを尊重した過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身から習慣的にメイクする方はおられないので、お出かけ・詩吟教室・お客様と理由をお話して特別の洋服を選んだり、メイクするきっかけにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立に対して活発な要望が出にくくなっているので、行事食を頻回に計画して、特別感を演出している。下ごしらえや洗い物をしていただくことを継続する努力をしている。	毎日の食事はユニットごとにメニューを替えるなどの支援が行われ、利用者も協力して職員と一緒に作り、一品ずつ小鉢に盛り付けられている。食材の買い出しや味見などには利用者が積極的に参加され、食べることを楽しんでいただけるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は毎回記録している。水分不足にならぬようまめに声掛けしたり、飲み物を選んで飲めるよう多くの種類を提示して目先の変化もつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人個人の状態に応じた用具を選んだり、必要な援助を見極めて一人一人に適して支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が継続できるように日常的に紙パンツ等を使用する方もまずはトイレに行くことを優先して支援している。	トイレ回数が増えても、利用者本人の意志を尊重し、トイレに行きたいという申し出に応えられている。入居して間もない時に失敗が多かった利用者にも、ゆっくり慣れていただき、ペースを作ることで自立につなげられた事例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や掃除などで体を動かしてもらい、水分摂取量の記録も見て献立を考えたり、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	まず希望に添うように入浴して頂いている。緊急時以外は回数・曜日に拘ることなく入浴できている。拒否の強い方は職員を替えたり、タイミングを改めて誘う等の工夫をしている。	入浴回数や曜日など利用者の希望やこだわりにはできるだけ応じられている。洗身時、声かけにより羞恥心への配慮がなされたり、入浴後の健康チェックなどにも気を配るなどの支援に取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は其々の状況に合わせて自由に休息して頂いている。意思表示の難しい方は、体調や様子観察・バイタルチェックの結果で休息をお勧めしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は変更もあるのでフロア長管理のもとでセット・配薬と複数の担当者が点検して誤薬予防に努めている。申し送り・ミーティング・連絡ノートで情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯干し・畳みもの・買物などの家事で役割意識を感じていただき、外食と等で気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に外出できている。地域や家族の方とともにではないが、外食や遠出のドライブなども計画して外出の支援をしている。	「外に出たい」利用者には、職員がつき添い、周辺を歩いてくるなどの支援が行われている。また、専任のドライバーがいることで、外出の機会が増え、その様子は個々に写真ファイルを作成し、家族にも観ていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時にホームの財布を預って頂いたり、会計の際には担当して頂いたりして、お金を使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、携帯を持っている方はおられないが、必要時は、事業所の固定電話の子機を居室にお持ちしてゆっくりお話出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの換気・臭いは注意して清潔感を重視している。窓の開け閉めや換気・カーテンの開閉は利用者自身がされて、コントロールが難しい環境であるが、頻回な巡視と安全点検で居室内の環境チェックをしている。	季節に合った飾りや利用者の生き生きとした笑顔の写真が随所に見られ、温かみのある居場所が確保されている。テレビをみたり、音楽を聞いたり、ボランティアによる詩吟の稽古が行われるなど、利用者が自由に過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にソファを置いたり、テレビ前の席にはソファや椅子で個々の過ごしやすい姿勢で過ごせるように配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	体調変化・ADL低下に対応して家具の配置を変えたり、ベッドの高さを調整したりして安全に暮らせるよう工夫している。	清潔感が感じられ、それぞれの好みや習慣に合わせて家具が配置され、落ち着いた生活が送られるよう支援がなされている。加湿器などを用いて、乾燥防止に努めるなど、利用者の健康面や衛生面への配慮も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除用具でも、箒・モップ・紙モップと得意な道具を使っていただいている。机の角や床の小さな段差なども家具の配置でつまづき事故の予防を図っている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名:グループホーム見晴らしの家

作成日:平成 28年 5月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族や地域住民が参加しやすい運営推進会議を目指し、行事やイベントに合わせて開催することを目標にしたが、27年度に実現できなかった。	現在家族が参加しておられるイベントに合わせて運営推進会議を開催し、家族が気軽に参加できるよう呼びかけを工夫する。	①事業所の行事やイベントの計画を事前にお知らせする。 ②従来のイベントに加えて、消防避難訓練や認知症サポーター教室に家族参加を呼び掛ける。	6ヶ月
2	35	地域住民との協力体制作りの確保のために、具体策が不足している。	現状で実施していることを地域の方に見て頂く機会をつくり、まずホームを知って頂く。	①消防避難訓練の開催を地域にお知らせして、訓練模様を見学して頂く。 ②認知症サポーター教室を開催して参加を呼び掛ける。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。